

精神科研修カリキュラム（村井病院）

I. 研修概要

精神科研修は4週間行う。当病院は精神科急性期病棟（精神科単科病院、220床）をもち、重症の精神病患者を積極的に受け入れている。平均在院日数は比較的短く、外来患者は一日平均100近く、うち半数は精神科デイケアに参加している。高度先進医療や特殊な精神療法、学術的な研究などはほとんど行っていないが、地域精神医療の第一線で比較的活発に役割を果たしているものと自負している。そのような中で、精神医学と精神医療の基本を学んでいただきたいと考えている。

研修目標

1. 一般目標

日常よく遭遇する精神症状、精神疾患について基本的な診断と治療が行えること。また適切なタイミングで専門医に紹介できること。

チーム医療の理念を理解し、メンバー（患者、家族、病院スタッフ、その他関係者）との良好なコミュニケーションを維持しながら、チームのリーダーとして責任ある行動に努める姿勢を身につけること。

2. 行動目標

(1) 診断と治療

主な精神疾患について、基本的な知識を身につける。面接や観察から、基本的な精神症状を捉えることができる。精神科的救急に対して、適切な対応ができる。向精神薬の適応と副作用を知り、適切な処方ができる。精神療法の原則を身につけ、支持的な精神療法的関与が行える。精神科患者をとりまく社会的背景と、彼らを援助するための様々な制度を知り、適切な窓口で紹介できる。基本的な法律的知識を持ち、患者の人権を尊重しながら必要な行動制限を行うための due process を理解して、合法的な行動をとることができる。

(2) コミュニケーションとチーム医療

1) 基本的な面接法

- ・患者や家族を尊重して安心感を与え、必要な情報と協力を得ることができる。

患者や家族の陳述に耳を傾けて共感すると同時に、表情や態度を客観的に観察し評価できる。

- ・病歴や必要な情報を系統的に聴取し、記録できる。

診断や治療についてわかりやすく説明し、十分な informed consent を得ることができる。

2) チーム医療

- ・患者を理解し、治療成果を評価するため、病院内のあらゆる職種の職員から必要な情報を集めることができる。

- ・治療方針についてチーム内で自由な討論を促し、その結果をまとめて全員を指揮することができる。

- ・関係する病院外の機関と適切なコミュニケーションがとれる。

(3) 経験目標

1) 診察法、検査、治療手技

- 2) 基本的な身体診察、面接
 - 3) 頭部画像診断、脳波、心理検査
 - 4) 薬物療法
 - 5) 支持的精神療法
 - 6) 作業療法、集団療法
 - 7) 電気ショック療法
- (4) 経験すべき疾患、病態
- 1) 優先順位第1位（自ら主治医として経験する）
 - ・気分障害（抑うつ状態、自殺企図）
 - ・統合失調症（幻覚妄想状態）
 - ・老人性痴呆（せん妄と意識障害）
 - 2) 優先順位第2位（症例があれば主治医として経験する）
 - ・気分障害（躁状態）
 - ・てんかん（けいれん発作）
 - ・発達障害、精神発達遅滞、心因反応
 - 3) 優先順位第3位（機会があれば積極的に参加する）
 - ・薬物依存症
 - ・摂食障害
 - ・不安障害
 - ・身体表現性障害、ストレス関連障害
 - ・人格障害

研修方略

II. 研修スケジュール

主に午前中は外来で新患の予診と陪席を行い、午後は病棟で指導医のもとで入院患者の診療にあたる。少なくとも1例の急性期患者の主治医となり、その患者の case presentation を医局会等で行う。

病院外での診療、保健衛生活動（往診、収容入院、措置鑑定、保健所等とのカンファレンス）にも随時参加する。

研修評価

研修評価は、研修修了時（～その1ヵ月以内）担当指導医が、EPOC-オンライン評価システムにて評価する。最終評価は、まつもと医療センター病院群臨床研修管理委員会での委員会規定に基づいて行う。

< 指導体制 >

渡辺啓一 昭和52年卒 精神保健指定医